



様式第9(第5条関係)
(その1)

令和5年4月14日

新城市議会議長

長 田 共 永 様

氏名 滝川 健司

令和4年度政務活動費収支報告について

新城市議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項に基づき、別紙のとおり
令和4年度政務活動費収支報告書を提出します。

(その2)

令和元年度政務活動費収支報告書

氏名 滝川 健司

1 収 入

政務活動費 150,000 円

2 支 出

(単位:円)

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	0	
研 修 費	145,480	市町村議会議員特別セミナー(受講料・旅費)他
広 報 費	0	
広 聴 費	0	
要請・陳情活動費	0	
会 議 費	0	
資 料 作 成 費	10,570	コピー機リース料、コピー代
資 料 購 入 費	0	書籍代
合 計	156,050	

3 残 額

0 円

(注) 1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。
2 領収書又はこれに準ずる書類を添付する。

令和4年度政務活動研修費明細

滝川健司

『研修費』			145,480 円
○全国市町村国際文化研修所 令和4年4月11日～12日 令和4年度第1回市町村議会議員特別セミナー 上記研修会の交通費等として			
乗車券（茶臼山⇄唐崎）	15,820 円		
研修参加費	6,900 円	領収書は山口議員と折半	
振込手数料	220 円	〃	
小計	22,940 円		
○全国水源の里シンポジウムIN福島県喜多方市 令和4年10月27日～28日 上記研修会の交通費等として			
乗車券（茶臼山⇄喜多方）	35,980 円		
宿泊費	13,000 円		
現地視察参加費	2,000 円	領収書は山口議員と折半	
振込手数料	220 円	領収書は山口議員と折半	
小計	51,200 円		
○第17回全国市議会議長会研究フォーラム 令和4年10月19日～20日 上記研修会の交通費等として			
乗車券（茶臼山⇄長野）	17,020 円		
フォーラム参加費	9,000 円		
視察参加費	11,000 円		
宿泊費	10,500 円		
振込手数料	660 円		
小計	48,180 円		
○全国市町村国際文化研修所 令和5年1月23日～24日 令和4年度第3回市町村議会議員特別セミナー 上記研修会の交通費等として			
乗車券（茶臼山⇄唐崎）	15,820 円		
研修参加費	6,900 円		
振込手数料	440 円		
小計	23,160 円		
合計			145,480 円

振込金受取書(兼手数料受取書)

14年11月01日

お振込先 お受取人 お振込先 お振込先 お振込先	金額	十億	百万	千	円
	現金類			4	138,000
	未決済小切手	枚			
	貯金振替				
お振込先 お振込先 お振込先 お振込先	フリガナ(イ)センコフシヤウケンリンニョウサイケン センコフシヤウケンコソクイブシヤウケンシヨクシ (公財)全国守野村研修財団 様 全国守野村国際文化研修所 フリガナ ヤマダキヨウイブ シンシヨクシヤウ 新城市 様 山口洋一 流用使司 様 〒441-1325 市()26-4922 新城市黒田字秋平野33-1	手数料徴収区分	手数料(税込)		
		1: 即納 2: 後納 3: 不要	¥1440		

○お振込金額のうち決済未確認の小切手は、上記のとおりですが、万一不渡りとなったときは、この振込を取り消し、小切手は、権利保全の手続きをしないで当店において返却します。

- 振込先金融機関へは、お受取人名のほか貯金種目・口座番号を通知します。お受取人名はカナ文字により送信します。
- 振込依頼書に記載相違等の不備があった場合には、照会等のため振込が遅延することがありますのでご了承ください。
- 通信機器、回線の障害等やむを得ない事由によって振込が遅延することがありますのでご了承ください。
- この振込金受取書(兼手数料受取書)は、振込ができない場合などに必要となりますので、ご依頼人が大切に保管してください。
- 振込ができない場合は、この手数料のほか、別途手数料がかかる場合がありますのでご了承ください。

取扱店

新城市黒田字秋平野33-
愛知東農業協同組
八名支店
☎(0536)26-110

印紙
(200円)
組合員または
振込金+手数料
5万円未満は
非課税

4月11日~12日 JIAMセシナ

いつもJAバンクをご利用いただきありがとうございます。

お取扱明細票

いつもご利用いただきありがとうございます。
お取引いただきました明細は、下記のとおりです。

ご利用年月日	取扱金庫・店番・機番通番		
04-10-11	1551008-ツ152		
カード発行金融機関・店番・科目・口座番号			
[REDACTED]			
万円(枚)	千円(枚)	百円(枚)	お取引金額
000000000000			¥30,500*
お取引種別		お取引後残高	
支払い		*****	
手数料	¥660	ページ	硬貨
時刻	11:15		おつり
[REDACTED]			
トウフ"トツフ"ツアー" (カ様			
5221タキカワケツ"様			
[REDACTED]			
印紙税申告納	ご利用ありがとうございます		
村"つき費棒	ございました。		
税務署承認済			

豊橋信用金庫

10月19日~20日 議長会フォーラム

お取扱明細票

いつもご利用いただきありがとうございます。
お取引いただきました明細は、下記のとおりです。

ご利用年月日	取扱金庫・店番・機番通番		
04-10-18	1551008-ツ190		
カード発行金融機関・店番・科目・口座番号			
[REDACTED]			
万円(枚)	千円(枚)	百円(枚)	お取引金額
000000000000			¥4,000*
お取引種別		お取引後残高	
支払い		*****	
手数料	¥440	ページ	硬貨
時刻	11:36		おつり
[REDACTED]			
タ"イツ"ユウヨンカイセ"ソコクスイケ"ソノサト			
ツツホ"ツ様			
タキカワ ケツ"様			
[REDACTED]			
印紙税申告納	ご利用ありがとうございます		
村"つき費棒	ございました。		
税務署承認済			

豊橋信用金庫

水源の里シンポジウム

お取扱明細票

いつもご利用いただきありがとうございます。
お取引いただきました明細は、下記のとおりです。

ご利用年月日	取扱金庫・店番・機番通番		
05-01-16	1551008-ツ136		
カード発行金融機関・店番・科目・口座番号			
[REDACTED] **			
万円(枚)	千円(枚)	百円(枚)	お取引金額
000000000000			¥6,900*
お取引種別		お取引後残高	
支払い		*****	
手数料	¥440	ページ	硬貨
時刻	11:20		おつり
[REDACTED]			
サ"イ)セ"ソコクツチヨウソクケンツユウサ"イタ			
"ンセ"様			
タキカワ ケツ"様			
[REDACTED]			
印紙税申告納	ご利用ありがとうございます		
村"つき費棒	ございました。		
税務署承認済			

豊橋信用金庫

第3回JIAMセミナー

(注) 領収書又はこれに準ずる書類を重ねないように貼付する

研修報告書

令和4年 4月 30 日

新城市議会議長 様

滝川健司



以下、研修に参加しましたので報告致します。

1. 研修日 令和4年4月11日（月）～12日（火）
2. 研修場所 全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号）
3. 研修内容 令和4年度 「第1回市町村議会議員特別セミナー」
日程及び詳細は別紙による
4. 派遣員 滝川健司
5. 経費 政務活動費を使用
6. 行程 公共交通機関（JR）を使用
7. 研修内容報告・所感



講義1 「 地方行政と政策デザイン 」

講師：福井県知事 杉本 達治 氏

- ・5つのクレド、①現場 ②挑戦 ③協働 ④創意工夫 ⑤効率化
異動があっても、予算が減っても、指示を待たない行動規範。
- ・徹底現場主義により課題発見→実行→改善を早くまわす。（ウーダグループ）
- ・政策トライアル枠予算→各課に1千万円。
- ・若手職員のチャレンジ応援→チャレンジ政策提案→知事に直接提案。
- ・チーム福井（市町連携）、市町長との政策協議、市町議員との意見交換、市町への技術者派遣。
- ・政策オープンイノベーション→①長期的視点 ②創造性重視 ③機動的視点 ④総合力発揮。
- ・政策デザイン思考の活用→ユーザー視点、全体を俯瞰、手法最適化。



講義2 「 日本の少子化対策はなぜ失敗したのか 」

講師：中央大学文学部社会学専攻 教授 山田 昌弘 氏

- ・少子化は日本社会の構造に関わる問題、親の意識が変わらない。
- ・欧米の研究者、なぜ、日本は対策してこなかったのか？
- ・日本の少子化対策失敗の原因→多様な未婚者の生の声を聴くことを怠っていた。
- ・欧米固有の習慣や価値意識を前提、日本人に特徴的な習慣価値意識。
- ・近年の未婚化の理由→①経済的不安 ②出会いの減少 ③恋愛へのあこがれ消失。



講義3 「 行動するSDGs～「ごみ」からのアプローチ～ 」

講師：京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴 氏

- ・日本の食品ロス（残飯）約 11.1 兆円⇨農水産生産額約 12.4 兆円。
- ・プラスチック容器リサイクル回収 25%（日本）。
- ・3R（スリーアール）+Renewable（リニューアブル）へ。
- ・3R+リニューアブルは、国際的に環境への負荷が問題化しているプラスチック製品を対象に、捨てることを前提としない経済活動の促進をはかる「プラスチック資源循環促進法」（2022年4月施行）の基本原則。
- ・ごみは社会の変化を映す鏡、いつからもったいない社会になったのか？
- ・中山間地域とSDGs持続可能性→ ローカルSDGs⇨地域循環共生圏。



講義4 「 歴史的資源を活用した観光まちづくり 」

講師：バリューマネジメント株式会社 代表取締役 他力野 淳 氏

- ・歴史的建造物、行政の遊休施設等地域資源の活用。
- ・基本理念：日本の文化を紡ぐ→価値ある日本文化を後世に。
- ・課題：人口減少、過疎化、税金による保全、失われる地域資源。
- ・解決策：歴史まちづくり事業→歴史的資源の利活用（宿泊施設、飲食店、結婚式場等）
- ・事例：①神戸迎賓館（旧西尾邸）②Nipponia Hotel 大洲城下町 ③平安神宮会館神苑
- ・愛媛県大洲市城下町→分散型ホテル「町全体がホテル」。
- ・まちの資源の活用→ 見る文化財から活用する文化財に。
- ・観光は一つの突破口→ 稼ぐ力を取り戻す。
- ・税金に頼らないまちづくり→ 持続可能なまちづくり。
- ・イニシャルコストには税金を投下しても、ランニングコストには投下しない。



【所感】

今回の研修では、現職知事による行政運営・政策デザインのあり方、なぜ日本は長年少子化を放置してきたのか、ごみ問題から持続可能な中山間地の循環共生社会を考える、歴史的資源を活用した観光まちづくりと多岐にわたる研修内容でした。

政策オープンイノベーションでは、長期的視点な未来を創る目標、創造性重視をした政策提案、機動的視点OODAループによる改善サイクル、総合力発揮による政策立案と課題解決等は今の新城市議会に求められている改革である。

少子化対策は基本的に国家的課題であるが、行政としてできる婚活支援を考えるうえで、収入が不安定な男性をどのようにして結婚までもっていくか、そのような男性と結婚しても大丈夫という女性をどう増やしていくかにかかっている。

ごみの処理に多くの税金を投入することより、ごみを出さない事、ごみを減らすこと、出たごみは3R（スリーアール）+Renewable（リニューアブル）へ。

歴史的文化資源を保存し見る文化財から、利活用する文化財へ。税金を投入して保存するだけでなく、稼ぐ文化財としてまちづくりにつなげるべき。



令和4年度

第1回市町村議会議員 特別セミナー

日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、地方議会の議員には、様々な行政課題について学び、施策を提案していくことが求められています。

今回の研修では、まちづくりをテーマに、様々な分野の第一線でご活躍の方々にご講演いただき、改めて地域を見つめ直すとともに、地方議員に求められる役割について多角的に考えていきます。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

開催要領

日程

令和4年4月11日(月)～4月12日(火)(2日間)

場所

全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対象

市区町村議会議員

2日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数

来所による受講 150人 ※途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

オンラインによる受講 50人 ※オンラインについては、ビデオ会議システムZoomを使用します。機材やインターネット接続のための環境が必要です。詳しくはZoom公式サイトをご参照ください。

[来所による受講]、[オンラインによる受講]ともに、募集人数を大幅に上回るお申込をいただいた場合は、先着順とさせていただきます。そのため、申込期限前に締め切らせていただく場合があります。その場合は、JIAMホームページのトップページ「受講者募集中の研修」でお知らせいたしますので、適宜ご確認ください。

宿泊

研修所宿泊棟(宿泊型研修)(来所受講のみ) ※外泊はできません。

経費

来所による受講 6,900円

上記金額は、研修、宿泊、食事(朝食1回、昼食1回、夕食1回)、資料等にかかる費用です。なお、事前準備・事前学習および最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。

オンラインによる受講 2,000円

申込期限

令和4年3月9日(水)まで

※先着順のため、申込期限前に締め切らせていただく場合がございます。

申込方法

- 議会事務局を通じて、JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。
- 来所による受講とオンラインによる受講を選択できますので、どちらか一つのみお申し込みください。

[Web申込み]が難しい場合は、受講申込書により議会事務局を通じてFAXでお申し込みください。

※受講申込書は、議会事務局に送付しております。またJIAMホームページの書類様式集(<https://www.jiam.jp/doc/>)にも掲載しております。

受講決定

受講の可否については、通常、開講日の約1か月前までに通知をお送りしておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2～3週間前までの送付となる場合もございますので、ご了承ください。

経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

問い合わせ先

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL.077-578-5932 FAX.077-578-5906

[e-mail] kenshu@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

令和4年度「第1回市町村議会議員特別セミナー」時間割

(敬称略)

月日	曜日	1時限 (9:25-10:35)	2時限 (10:50-12:00)	3時限 (13:00-14:10)	4時限 (14:25-15:35)	5時限 (15:50-17:00)	課外 (17:00-)
4/11	月		11:00 - 入寮受付 13:00 - 開講式、日程説明	【講義】 (13:15-14:45) 地方行政と 政策デザイン 福井県知事 杉本 達治 【講堂】	【講義】 (15:05-16:35) 少子化問題の 日本の特徴 中央大学文学部 社会学専攻 教授 山田 昌弘 【講堂】	16:45- 入寮オリエンテーション	
4/12	火	【講義】 (9:00-10:30) 行動するSDGs ～「ごみ」からの アプローチ～ 京都大学大学院 地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴 【講堂】	【講義】 (10:50-12:20) 歴史的資源を活用した 観光まちづくり バリューマネジメント 株式会社 代表取締役 他力野 淳 【講堂】	12:20-12:30 閉講、事務連絡			

講師紹介

●福井県知事 杉本 達治(すぎもと たつじ) 氏

1986年東京大学法学部卒業後、自治省(現総務省)に入省。2001年総務大臣秘書官、2003年総務省自治行政局行政課企画官、2004年福井県総務部長、2007年内閣参事官(内閣官房副長官補付)、2010年総務省自治事務局市町村税課長、2013年福井県副知事、2016年総務省消防庁国民保護・防災部長、2018年総務省公務員部長を歴任し、同年11月総務省退官。2019年4月福井県知事に就任(1期目)。

●中央大学文学部社会学専攻 教授 山田 昌弘(やまだ まさひろ) 氏

1981年東京大学文学部卒業。1986年同大学院社会学研究科博士課程退学。東京学芸大学教授を経て、2008年より中央大文学部教授。内閣府・男女共同参画会議民間議員、東京都社会福祉審議会委員など公職を歴任。専門は家族社会学で、婚活の名付け親でもある。愛情やお金を切り口として、親子・夫婦・恋人などの人間関係を社会的に読み解く試みを行っている。著書に、「結婚不要社会(朝日新書)」、「日本の少子化対策はなぜ失敗したのか? 結婚・出産が回避される本当の原因(光文社新書)」、「新型格差社会(朝日新書)」他。

●京都大学大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴(あさり みすず) 氏

2000年京都大学工学部地球工学科卒業。2004年博士(工学)。研究テーマは「ごみ」や「環境・SDGs教育」。世界中の「ごみ」や暮らしぶりを観察して歩く日々を送る。社会の縮図として、京都大学のサステイナブルキャンパス化にも取り組む。学生時代に「京大ゴミ部」を立ち上げ、環境啓発・教育活動に取り組み始め、2005年からは、京都議定書達成に向けた「びっくり!エコ100選」、エネルギー問題にアクションを起こす「びっくりエコ発電所」、京都におけるSDGs実装を目指す「エコ〜るど京大」や「京都超SDGsコンソーシアム」「京都里山SDGsラボ(ことす)」などを展開。2022年11月に第15回を開催する「3R・低炭素社会検定」の事務局長も務める。

●バリューマネジメント株式会社 代表取締役 他力野 淳(たりきの じゅん) 氏

2005年バリューマネジメント株式会社設立、代表取締役に就任。グローバル起業家団体EO(Entrepreneurs Organization)Japan Area Director。文化財など歴史的資源、行政の遊休施設の利活用や観光まちづくりを推進。現在、観光庁の歴史的資源を活用した観光まちづくり、城の利活用を推進する城泊の専門家を担う。「施設再生から地域を活性化に繋げ、日本独自の文化を紡ぐ」がテーマ。

研修報告書

令和4年11月30日

新城市議会議長 様

滝川健司

以下、研修に参加しましたので報告致します。

1. 研修日 令和4年10月27(木)～28日(金)
2. 研修場所 福島県喜多方市
3. 研修内容 令和4年 第14回 全国水源の里シンポジウム
(詳細は別紙資料参照)
4. 旅 費 政務活動費を使用
5. 行 程 公共交通機関(JR)を使用
7. 研修報告・所感



■基調講演「水源の里持続的発展のための地域戦略」

～社会の大転換における水源の里が持つ多様な価値を生かして～

講師：徳島大学総合科学部 准教授 田口太郎氏



人口減少は何が問題なのか？ 人は多ければよいのか？

元気がない5,000人と生き生きした2,000人、どちらが地域を活性化するのか？

2022年問題から2027年問題に。団塊世代が80代になり、これまでの担い手が受援者になっていく。高齢化・人口減少が進む中で地域はどの道を進むのか。地域の主体性、戦略性を育みながら地域の自立性を高める地域の自治力の再生を目指していく。必要な自治力と担い手数とのギャップの中で、自治の空白をどう埋めていくかが課題。その担い手として移住者や関係人口が空白を埋めていく。

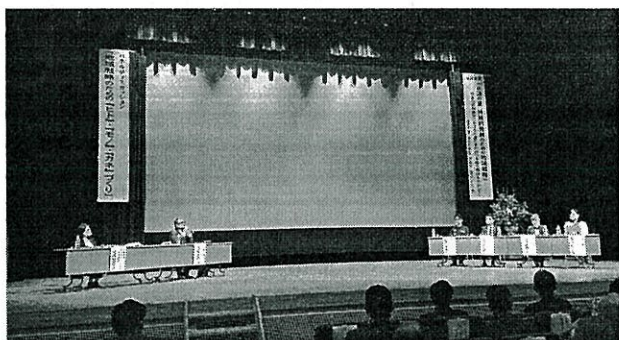


新たな担い手として地域と共同してくれる移住者の獲得、地域に貢献してくれる企業の獲得、地域を高めてくれる関係人口の獲得。しかし単純に外部人材を呼ぶのではなく、地域の自治力向上に寄与する外部主体が自治の空白を埋める。自治の空白を埋める ICT 技術の活用は、地域間で開きがあり地域間格差を広げる可能性がある。地域における DX の導入はフルスペックな DX ではなく、需要可能で使い方を工夫する。地域づくりは自治力を高める取り組み、自治力は地域に必要な手立ての企画立案力と、手立ての実行力が必要。地域の人口減少・少子高齢化はこの双方とも衰退させ、地域外の協力者を得る必要がある。つまり、交流人口であり関係人口である。これらの人口が増えること増やす事が目的でなく、継続的に課題解決の関係を維持していくことが大切である。



【パネルディスカッション】

テーマ：地域戦略のための「ヒト」・「モノ」・「カネ」づくり



コーディネーター：遠藤和子氏

(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
農村工学研究部門資源利用研究領域 研究領域長)

パネリスト

【石島来太氏(NPO 法人かけはし代表理事)】

長野県上田市出身。徳島大学人間発達文化学類卒業。東北大学大学院経済学研究科「地域イノベーションプロデューサー塾」卒塾。2017年から3年間喜多方市高郷町の地域おこし協力隊として活動し、2020年2月に学びの機会と環境を提供する団体「NPO 法人かけはし」を立ち上げる。現在はその代表理事として様々な事業を展開しつつ、喜多方のまちづくりに日々奔走している。

【松崎健太郎氏((株)オクヤピーナッツジャパン代表取締役)】

富木島県喜多方市出身。会津農林高等学校卒業。1997年「おく屋」創業、2009年「株式会社おくや」法人化・代表取締役就任。退任後、2020年農業法人(株)オクヤピーナッツジャパンを創業、現在認定農業者・代表取締役。会津の名産品であった「豆」に着目し、豆菓子の製造販売開始。2010年会津の農家と立ち上げた「会津豆倶楽部」による落花生契約栽培、会津産落花生を地元からPRするための「おくやピーナッツ工場」、東北初のピーナッツ一次加工所「会津落花生センター」開設、会津の障がい者施設と連携した落花生の手剥き等、会津喜多方地域の活性化に貢献することを目指している。

【堀恵子氏((株)河京監査役)】

福島県喜多方市出身。明治大学経営学部卒。その後地方公務員として、環境・子ども・教育・文化行政に関わる。2020年喜多方市にUターン。母亡き後、(株)河京の監査役に就任。現在、カフェ&スイーツ コッコリーのガーデンを担当。また世田谷美術館(向井潤吉展)や日本女子体育大学(レトロ横丁イベント参加)との交流のサポート等を行う

【秋山綾子氏((一社)日本ポジティブヘルス協会代表理事)】

福島県いわき市出身、喜多方市育ち。金沢大学医学部保健学科卒、北里大学大学院医療系研究科修了(以下学修士)。大学病院で心臓リハビリテーションに携わったのち、起業。ウェルネスツーリズム企画など健康関連事業を展開。2020年にUターンし、市内中心部の小田付蔵通りにワーケーションHUB「醸し場」を整備。首都圏企業と地元事業者のコラボレーションなど、喜多方における新たな魅力や機会の創出に注力している。

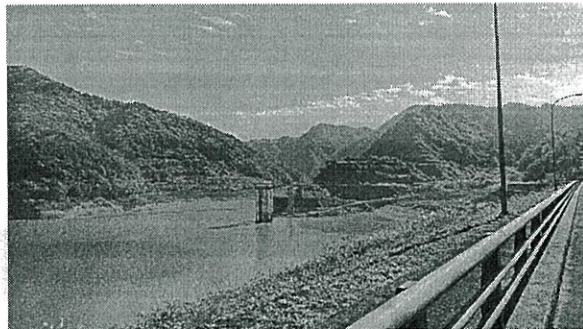


【現地視察】有機農業のまち熱塩加納で食べる日本一おいしい学校給食

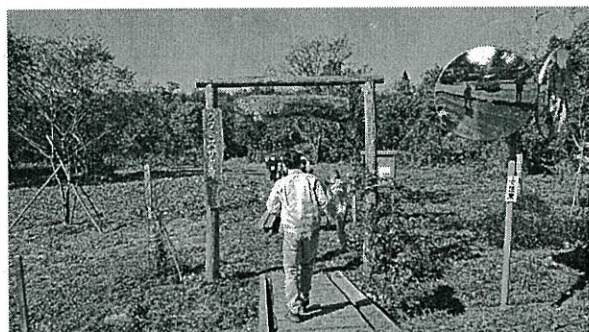
○ふくしま緑の百景 ブナ原生林



○日中ダム



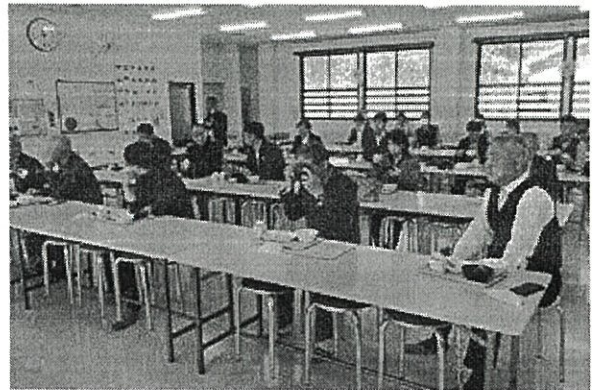
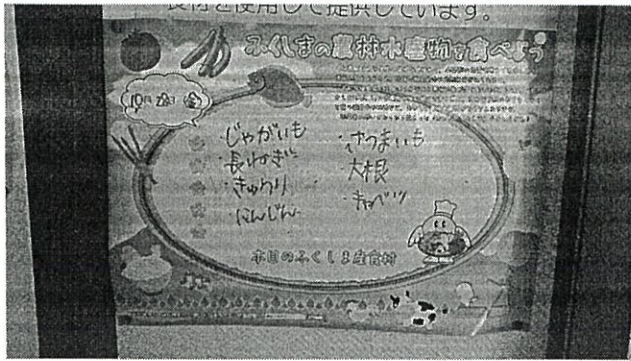
○夢の森花の散歩道



○菊芋収穫



○日本一おいしい学校給食（まごころ野菜の会の食材を使った給食、文部科学大臣賞）



《大会アピール》

「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を理念とした「水源の里」の活動は、自然から生み出される豊かで清らかな水資源、人々の営む生活、育んできた産業や文化を継承するとともに都市との共生を進めてきました。

本日、「第14回全国水源の里シンポジウム」に参加した私たちは、「水源の里」を持続可能なものとするため、新たに革新的な技術も取り入れながら、ほかに誇る多様な価値を戦略的・自律的に地域づくりに生かすとともに、地域力を再生するための人材を育て、呼び込み、仲間づくりなどの協働を行い、共生関係にある都市との関係を強化していくことが重要であるとの認識を深めることができました。

私たちは、田園回帰の潮流をより本格化させ、我が国の基盤である「水源の里」を欠かすことのできない財産として次世代につなぎ、我が国の新たな社会を創造するために、一体となって次に取り組むことを宣言します。

- 一 「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の理念に基づく流域連携・相互補完の必要性を全国にアピールするとともに、流域間における価値の循環・共生により、「水源の里」が有する価値を高めます。
- 一 「水源の里」を持続可能なものとするために、住民と市町村の強力なパートナーシップにより地域の将来像及びその実現策をともに考え、国や都道府県の力強い支援を得ながら、地域力の再生に向けた取り組みを行います。
- 一 「水源の里」の課題は都市の課題でもあることから、地域の人材を育て、デジタルの力などを活用し、付加価値を生み出しながら課題解決を図ることで、未来の子供たちに自信と誇りを持って「水源の里」を引き継いでいきます。

以上を確認し、大会アピールとします。

令和4年 10月27日

「第14回全国水源の里シンポジウム」参加者一同

「青海波に千鳥」「流れに鯉」桜喜多方の染型紙
(福島県指定重要有形民俗文化財「会津の染型紙と関係資料」)

水源の里

第14回 全国水源の里 シンポジウム

in 福島県喜多方市

水源の里
持続的発展のための
地域戦略

上流は下流を思い、
下流は上流に感謝する

～社会の大転換期における
水源の里が持つ
多様な価値を生かして～

日程：令和4年10月27日(木)・28日(金)

会場：喜多方プラザ文化センター (福島県喜多方市字押切二丁目1番地)

主催：第14回全国水源の里シンポジウム実行委員会・一般財団法人 自治総合センター

1日目／10月27日(木) シンポジウム

13：00～17：00 現地開催+映像ライブ配信

■基調講演

【講師】徳島大学准教授 田口 太郎氏

■パネルディスカッション

【コーディネーター】農研機構 資源利用研究領域長 遠藤 和子氏

【パネリスト】石島 来太氏／松崎 健太郎氏／堀 恵子氏／
秋山 綾子氏

■交流会 18：00～ (事前申し込み・参加有料)

2日目／10月28日(金) 現地視察研修

9：00～13：00 昼食込み、有料・要事前申込

- Aコース 有機農業のまち熱塩加納で食べる日本一美味しい学校給食
- Bコース 都市ボランティアとともに守り引き継ぐ本木上堰と水資源
- Cコース フットパスで秋の会津を体感しながら巡る、新しい地域資源づくり
- Dコース 水の恵みを生かし、蔵で醸される「酒・味噌・醤油」発酵のまちづくり

第14回全国水源の里シンポジウム実行委員会 事務局：福島県喜多方市 地域振興課 ☎ 0241-24-5275

第14回 全国水源の里シンポジウム in 福島県喜多方市



私達が暮らす「水源の里」は、豊かな自然に恵まれ、水源の涵養や自然災害の抑止等、国土の維持・保全、良好な生活環境の形成に欠くことのできないものであり、「水源の里」に住む人々は、自然を活用しながら生活を営み、様々な産業や文化を育み、それらを継承しながら、都市部に暮らす人々の食料、水、エネルギーを供給し、質の高い生活文化など我が国の暮らしを支える大切な役割を果たしていますが、都市部への人口流出、少子・高齢化により、過疎化が進行し、地域活力の低下や山林の荒廃を招いています。

一方、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延、革新的な技術開発による社会の転換期を迎える中、「水源の里」が有する多様な価値が見直され、都市部の若者の地方への移住、デジタル化できないものの価値の向上など田園回帰の潮流が強まるとともに、革新的技術による地域課題の解決も期待されており、令和3年4月には「水源の里」などの過疎地域の持続的な発展を支援する「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」が施行されました。

そこで、直面する社会の变革や課題に対し、その克服に向けた取組を実践している住民、自治体、有識者が一堂に会し、地方創生、田園回帰の流れを捉えながら、持続可能な地域づくりをするために、地域自らがどのように戦略をたて、どう取り組むべきなのか、我が国全体の問題としてとらえるとともに、「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の理念に基づく流域連携の必要性を全国にアピールする場としてこのシンポジウムを開催します。

1日目 / 10月27日(木) シンポジウム 《入場無料・交流会は有料、要事前申込》



基調講演 講師

徳島大学
准教授
田口 太郎氏



コーディネーター

国立研究開発法人 農研機構
資源利用研究領域
研究領域長
遠藤 和子氏



パネリスト

NPO法人かけはし
代表理事
石島 来太氏



パネリスト

関オクキャビナッツ
ジャパン
代表取締役
松崎 健太郎氏



パネリスト

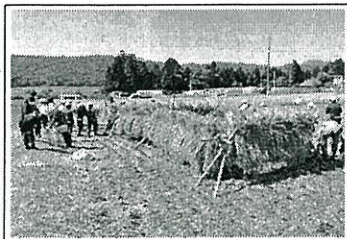
関河京
監査役
堀 恵子氏



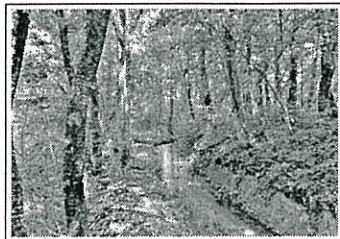
パネリスト

(一社)日本ポジティブヘルス協会
代表理事
秋山 綾子氏

2日目 / 10月28日(金) 現地視察研修 《有料、要事前申込》



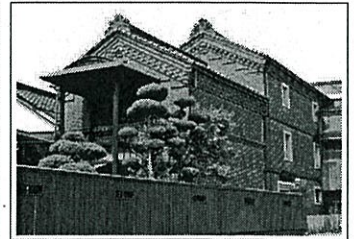
■ Aコース
有機農業のまち熱塩加納で食べる日本一美味しい学校給食



■ Bコース
都市ボランティアとともに守り引き継ぐ本木上堰と水資源



■ Cコース
フットパスで秋の会津を体感しながら巡る、新しい地域資源づくり



■ Dコース
水の恵みを生かし、蔵で醸される「酒・味噌・醤油」発酵のまちづくり



第14回 全国水源の里シンポジウム 福島県喜多方市

水源の里 持続的発展のための地域戦略

～社会の大転換期における水源の里が持つ多様な価値を生かして～

シンポジウム・交流会・宿泊・現地視察研修お申込みのご案内

私達が暮らす「水源の里」は、豊かな自然に恵まれ、水源の涵養や自然災害の抑止等、国土の維持・保全、良好な生活環境の形成に欠くことのできないものであり、「水源の里」に住む人々は、自然を活用しながら生活を営み、様々な産業や文化を育み、それらを継承しながら、都市部に暮らす人々の食料、水、エネルギーを供給し、質の高い生活文化など我が国の暮らしを支える大切な役割を果たしていますが、都市部への人口流出、少子・高齢化により、過疎化が進行し、地域活力の低下や山林の荒廃を招いています。

一方、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延、革新的な技術開発による社会の転換期を迎える中、水源の里が有する多様な価値が見直され、都市部の若者の地方への移住、デジタル化できないものの価値の向上など田園回帰の潮流が強まるとともに、革新的技術による地域課題の解決も期待されており、令和3年4月には、多様な機能や役割が一層重要になっている「水源の里」などの過疎地域の持続的な発展を支援する「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」が施行されました。

そこで、直面するこのような社会の変革や課題に対し、その克服に向けた取組を実践している住民、自治体、有識者が一堂に会し、地方創生、田園回帰の流れを捉えながら、持続可能な地域づくりをするために、地域自らがどのように戦略をたて、どう取り組むべきなのか、我が国全体の問題としてとらえるとともに、「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の理念に基づく流域連携の必要性を全国にアピールする場としてこのシンポジウムを開催します。

- 主催 第14回全国水源の里シンポジウム実行委員会、一般財団法人 自治総合センター
- 協賛 全国水源の里連絡協議会
- 後援 内閣府、総務省、農林水産省、国土交通省、福島県、全国市長会、全国町村会ほか（予定）
- 開催日 令和4年10月27日（木）、28日（金）
- 会場 喜多方プラザ文化センター（福島県喜多方市字押切二丁目一番地）ほか
- その他 新型コロナウイルス感染症の影響により、内容が変更となる場合があります。

■スケジュール

<10月27日> シンポジウム

日程	内容	備考
11:30	開場/受付開始	◆会場 喜多方プラザ文化センター 大ホール 福島県喜多方市字押切二丁目1番地 ☎0241-24-4611 ◆参加無料 ◆アクセス JR喜多方駅等から 無料シャトルバスあり
13:00～13:10	オープニング	
13:10～13:40	開会/あいさつ	
13:45～14:20	フォトコンテスト表彰式	
14:20～15:20	基調講演 「水源の里 持続的発展のための地域戦略 ～社会の大転換期における水源の里が持つ多様な価値を生かして～」 講師：徳島大学准教授 田口太郎氏	
15:30～16:45	パネルディスカッション ・テーマ 地域戦略のための「ヒト」・「モノ」・「カネ」づくり ・コーディネーター 国立研究開発法人 農研機構 農村工学研究部門 資源利用研究領域 研究領域長 遠藤和子氏 ・パネリスト 石島来太氏（NPO 法人かけはし 代表理事） 松崎健太郎氏（株オクヤピーナッツジャパン代表取締役） 堀恵子氏（株河京 監査役） 秋山綾子氏（(一社)日本ポジティブヘルス協会 代表理事、 喜多方ワーケーション推進協議会 代表幹事）	
16:45～16:55	大会アピール/次回開催地あいさつ	
16:55～17:00	閉会式	

※リモートでの参加を希望される方は、参加申込書の「リモート参加」欄に○を記入し、リモート参加用 URL をお知らせするため、申込代表者の E-mail アドレスをご記入ください。

<10月27日> 交流会 無料シャトルバスあり（開場前、終了後）

日程	内容	備考
18:00～20:00	交流会（開場 17:30～）	◆会場 喜多方プラザ文化センター 小ホール 福島県喜多方市字押切二丁目1番地 ◆参加料 3,000円

<10月28日> 現地視察研修（参加料：昼食・交通費含む）

日程	コース	備考
9:00～13:00	A 有機農業のまち熱塩加納で食べる日本一美味しい学校給食コース	9:00 集合 JR 喜多方駅各自 参集願います。 参加料 2,000円
	B 都市ボランティアとともに守り引き継ぐ本木上堰と水資源コース	
	C フットパスで秋の会津を体感し巡る、新しい地域資源づくりコース	
	D 水の恵みを生かし、蔵で醸される「酒・味噌・醤油」発酵のまちづくりコース	

※参加申込書にA～Dの中から第1希望～第3希望までご記入ください。
申し込み状況により調整させていただく場合がありますので、予めご承知おきください。

- 宿泊場所と料金** 「第14回全国水源の里シンポジウム宿泊施設のご案内」のとおり
※参加申込書にA1～G2の中から第1希望～第3希望までご記入ください。
申込状況によってはご希望に添えない可能性がありますので、お早めにお申し込みください。

■**その他**

○シンポジウム会場までの交通手段について

JR喜多方駅等市内各所から無料シャトルバス（11:00～13:00 15分おき）をご用意します。

○シンポジウム終了後の交通手段等について

JR喜多方駅等市内各所への無料シャトルバス（17:15～18:15 15分おき）をご用意します。

○交流会終了後の交通手段について

各宿泊先付近までの無料シャトルバスをご用意します。

また、乗り合わせ自家用車にてお越しの方は、ハンドルキーパーの確保をお願いします。

○宿泊先から現地視察会場までの移動について

集合場所（JR喜多方駅）まで無料送迎バスをご用意します。

現地視察先への移動は、自家用車等でお越しの方も含め、主催者用意の専用バスにご乗車いただきます。

現地視察終了後は再度集合場所（JR喜多方駅）まで戻り、解散となります。

自家用車でお越しの方はJR喜多方駅駐車場（有料）に駐車していただけます。

お申込み・お支払いの方法

- ① 別紙参加申込書に必要事項を記入のうえ、下記申込み先までファックスまたは郵送でお申込みください。
- ② 参加申込書様式は喜多方市ホームページからダウンロード（Excel）できます。
市HP：<https://www.city.kitakata.fukushima.jp>
- ③ 10月上旬に参加決定通知書・請求書等を代表者様に一括してお送りしますので、書類内容をご確認の上、10月21日（金）までに参加費用を指定口座へお振込みください。振込手数料は各自ご負担ください。
なお、宿泊費用は宿泊当日に直接宿泊施設へお支払いください。
- ④ シンポジウムの受付時に交流会及び視察費用の領収書をお渡しいたします。

お申込み先

喜多方観光バス(株)旅行部 全国水源の里シンポジウム受付係

〒966-0802 福島県喜多方市字桜ガ丘一丁目1番地1 **FAX：0241-22-0700** TEL：0241-21-1100

【個人情報の取扱い】

第14回全国水源の里シンポジウム実行委員会、喜多方観光バス(株)旅行部及び全国水源の里連絡協議会は、申し込みの際にご提供いただいた個人情報については、申込者との連絡や書類等の郵送、宿泊施設等の手配、それらサービスの受領及び統計資料の作成のために必要な範囲に限り利用します。

お申込みの締め切り日

令和4年9月30日（金）必着

変更・取消しについて

お申し込み後の変更・取消などが生じた場合は、喜多方観光バス(株)旅行部全国水源の里シンポジウム受付係までご連絡ください。なお、取消しに伴うキャンセル料は次のとおりです。変更・取消し等によりご返金の必要が生じた場合、シンポジウム終了後、ご指定の講座へ振込にて返金します。なお、返金に伴う振込手数料はお申込者の負担となりますのでご承知おきください。

<交流会・現地視察研修> 当日及び無連絡不参加：全額

<宿泊> 前日：宿泊料 30%、当日：宿泊料の 50%、連絡なしの宿泊：宿泊料 全額

現地視察研修

- 現地視察では、市職員、地元関係者等が見どころや取組等を説明します。
- 各コースとも一部徒歩の行程がありますので、歩きやすい服装、靴でお越しください。

Aコース 有機農業のまち熱塩加納（あつしおかのう）で食べる日本一美味しい学校給食

行程 9:00 喜多方駅西側駐車場（集合）⇒ 熱塩加納総合支所（説明）⇒ 夢の森花の散歩みち ⇒ 村の観察会 ⇒ 学校給食（見学・昼食）⇒ 喜多方駅西側駐車場 13:00 頃（解散）

有機無農薬、特栽米で知られる熱塩加納町。めてに磐梯ゆんでに飯豊、名水 100 選の桐峰渓流水が田畑を潤し、水源の里としていち早く下水道整備を行いました。まごころ野菜の会の食材を使った学校給食は文部科学大臣賞。地元有志はウワミズザクラの森を復活させ、キクイモを作り、村の宝を探すお散歩会・むらかん（村の観察会）を開催。三ノ倉高原では東北最大のひまわり畑や菜の花が観光客をお迎えます。

Bコース 都市ボランティアとともに守り引き継ぐ本木上堰（もときうわぜき）と水資源コース

行程 9:00 喜多方駅西側駐車場（集合）⇒ 本木・早稲谷集落（説明）⇒ 堰ウォーク ⇒ 山都そば・茅乃庵（見学・昼食）⇒ 喜多方駅西側駐車場 13:00 頃（解散）

約 275 年間、本木・早稲谷集落の棚田に水を供給している本木上堰は、全長 6 km の約半分が開削当時の土水路で維持に多くの労力が必要である一方、地区住民の高齢化等が進むことで維持活動が困難になっています。「本木・早稲谷 堰と里山を守る会」では、「堰さらい」ボランティアを募集し、都市住民等との交流を図るとともに、上堰米や日本酒の販売など付加価値を高める取組を行いながら、本木上堰を守っています。

Cコース フットパスで秋の会津を体感しながら巡る、新しい地域資源づくりコース

行程 9:00 喜多方駅西側駐車場（集合）⇒ 磐見会館（説明）⇒ フットパスウォーク ⇒ 直売所見学 ⇒ 高郷雷神そば（昼食）⇒ 喜多方駅西側駐車場 13:00 頃（解散）

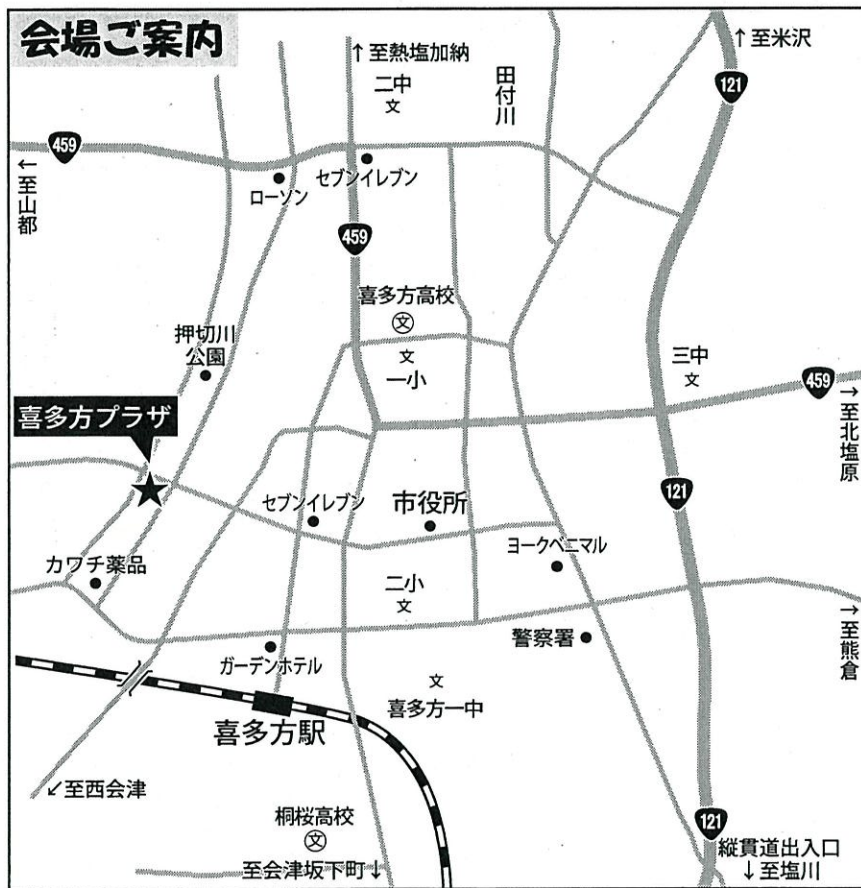
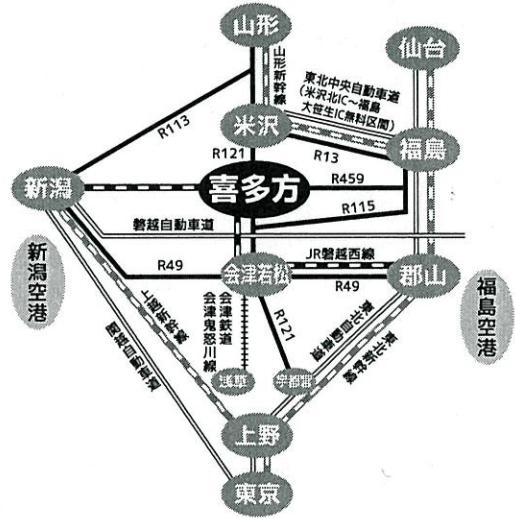
5つの集落からなる磐見地区は、福島県会津地方のシンボルで宝の山と親しまれる霊峰「磐梯山」が望めることから「磐見」と名付けられ、棚田、ジュンサイが自生するため池、清流に住む蛍等様々な地域資源があり、地区住民はそれらを生かし、森林や田園等のありのままの風景を楽しみながら歩く「フットパス」コースづくり、ザーサイ栽培、直売所運営、大学生との交流等様々なプロジェクトに取り組んでいます。

Dコース 水の恵みを生かし、蔵で醸される「酒・味噌・醤油」発酵のまちづくりコース

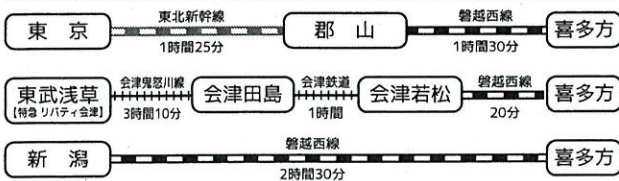
行程 9:00 喜多方駅西側駐車場（集合）⇒ 味噌・醤油・日本酒見学・試飲等 ⇒ 喜多方の染型紙 ⇒ 喜多方ラーメン（昼食）⇒ 会津喜多方ラーメン館 ⇒ 喜多方駅西側駐車場 13:00 頃（解散）

「蔵とラーメンのまち」喜多方市の北西、万年雪を抱く飯豊連峰に連なる桐峰の「桐峰渓流」は市の上水道の源泉で環境省「平成の名水 100 選」に認定されています。その豊かな水資源が「酒・味噌・醤油」等の醸造業に活用されることで、蔵文化が発展し、現在も醸造のまちづくり、地域産業として継承されています。

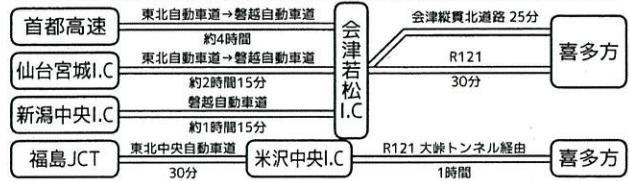
喜多方市へのアクセス



電車の場合



お車の場合



■お問い合わせ先

第14回全国水源の里シンポジウム実行委員会事務局
(福島県喜多方市役所 地域振興課内)
〒966-8601 福島県喜多方市字御清水東 7244 番地 2
担当：猪俣 健次 (いのまた けんじ)

TEL : 0241-24-5275
FAX : 0241-25-7073
mail : chiiki@city.kitakata.fukushima.jp

第2部 パネルディスカッション

「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」



コーディネーター 人羅 格氏 毎日新聞論説副委員長

- ・地方議会のデジタル化の現状と課題、コロナ後の展望について。



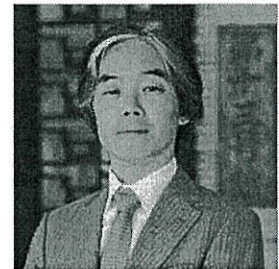
パネリスト 岩崎尚子 氏 早稲田大学電子政府・自治体研究所教授

- ・議会のデジタル化の目的は災害時でも議会機能を十分に発揮することと住民とのコミュニケーションを確保すること
- ・多様な層の市民に議会に参加してもらうためのオンラインという位置づけとして重要。



パネリスト 牧原 出 氏 東京大学先端科学技術研究センター教授

- ・デジタル化に向けての意識改革が必要となり職員や議員に求められる。
- ・DXは住民主体で考え、何が一番役に立つか考え進める。
- ・オンライン会議は普段から実施して情報の公開や他の議会との共有が大事。



パネリスト 湯浅壘道 氏 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授

- ・全国で半数の市議会がタブレットを導入、会議だけでなくその他の活動と一体的にデジタル化を進める。
- ・セキュリティーや個人情報保護の取扱いに十分注意する。



パネリスト 寺沢さゆり 氏 長野市議会議長

- ・長野市議会の取組、デジタル採決システムの導入、評決の議場モニターに表示、常任委員会のインターネット中継、議員一人に一台のタブレット配布、対面とオンラインのハイブリッド方式の意見交換会、オンラインによる委員会の開催。



第3部 意見交換会

第4部 課題討議

「地方議会のデジタル化の取組報告」

コーディネーター 谷口尚子 氏 慶応義塾大学大学院システムデザイン
マネジメント研究科教授



- ・デジタル化による議会活動や政策立案、住民とのコミュニケーションにおける市議会の取組状況について。

事例報告者 取手市議会議員 金沢克仁 氏



- ・ICTを活用した取り組み、会議、オンライン事前説明、現地視察、広報公聴、災害対応、研修、ペーパーレス、タブレット対応採決システム、自宅待機中の会議参加、動画のユーチューブアップ、オンライン現地視察、会議録の視覚化検索システムの導入。

事例報告者 可児市議会議員 板津博之 氏



- ・議会報告会は年2回、グループディスカッション形式で開催。コロナ禍ではハイブリッド方式で開催、また、完全オンラインの議会報告会を開催。
- ・グループウェアを導入、フェイスブックやインスタグラムによる情報発信。

事例報告者 西脇市議会議員 林 晴信 氏

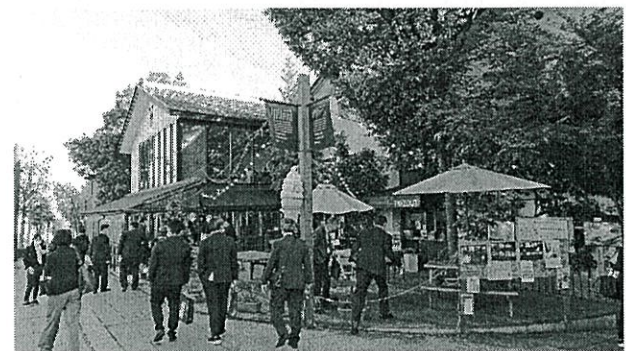
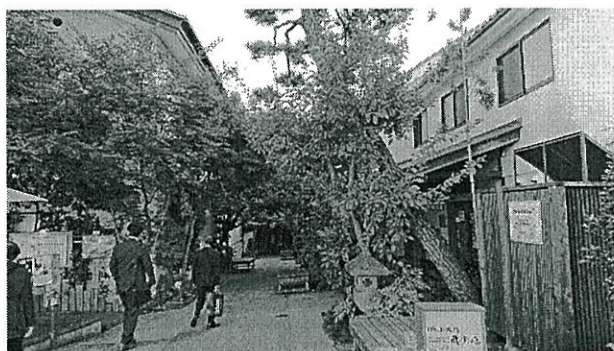
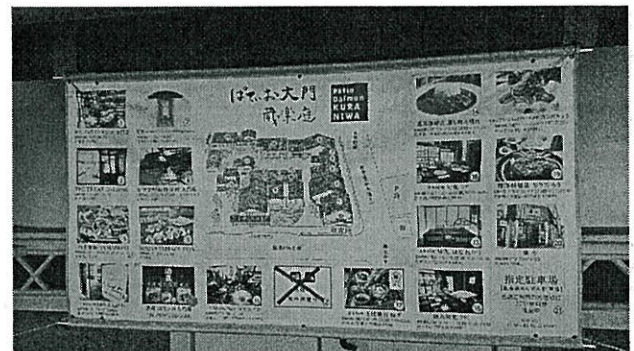


- ・議会の効率化デジタル化により多様化した民意を集約、DX導入で住民福祉の増進に寄与。

8. 現地視察

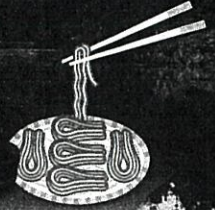
【善光寺表参道 門前を活かした中心市街地活性化によるまちづくり】

年間700万人が訪れる善光寺、その表参道は商業施設が立ち並び、歴史的建造物である土蔵や古い家屋をリノベーションした店舗などがあり中心市街地活性化に寄与しています。中でも「パティオ大門」は土蔵など歴史的建造物を修復し中庭（パティオ）風にしつらえた施設です。国からの事業計画とリノベーション補助金の交付を受けて整備した空き家屋の活用による商店街の活性化の先駆的な施設です。



第17回

全国市議会議長会 研究フォーラム



in 長野

令和4年
日時 10月19日(水) 13:00~
(受付11:30~)
20日(木) 9:00~
(受付8:30~)

《大会テーマ》

デジタルが開く
地方議会の未来

場所 **ホクト文化ホール**
(長野市若里1丁目1-3)



©善光寺

【主催】全国市議会議長会 【後援】総務省 【協賛】全国市議会議員互助会 (有)都市企画センター
【実施】第17回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会

第17回 全国市議会議長会 研究フォーラム

— デジタルが開く地方議会の未来 —



主催者挨拶



全国市議会議長会会長
横浜市議会議長

清水 富雄

(しみず とみお)

第17回全国市議会議長会研究フォーラムを、ここ長野市において実に3年ぶりに開催いたしましたところ、多数のご参加をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、本フォーラムは、全国の市区議会議員が一堂に会し、共通する課題や今後の議会のあり方について意見交換を行うとともに、議員同士の一層の連携を深めることを目的としております。

今回は、「デジタルが開く地方議会の未来」をテーマとし、地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性や、現場の具体的な取組などについて討議してまいります。

国においては、デジタル技術を活用して地方を活性化し、持続可能な経済社会を目指す「デジタル田園都市国家構想」が進められており、また、経済社会のデジタル化の急速な進展と新型コロナウイルス感染症の拡大などを背景に、地方自治体そして地方議会のデジタル化も急務となっております。

地方議会においては、議会活動そのものをオンラインでも実施できるような環境整備を行うとともに、デジタル技術を活用して議会と住民との新たなコミュニケーションの可能性を広げることが期待されています。

有識者の方々やご参加いただいた皆様方により活発な議論が交わされ、実りある成果が得られますとともに、今後の活動の一助となることを祈念いたします。

プログラム

第1日目 10月19日(水)

11:30	開場・受付
13:00	開会式
13:20	第1部 基調講演 富山 和彦 株式会社 経営共創基盤(IGPI) グループ会長 株式会社 日本共創プラットフォーム(JPIX) 代表取締役社長
	「コロナ後の地域経済」
14:20	休憩
14:40	第2部 パネルディスカッション 「地方議会のデジタル化の 現状・課題と将来の可能性」 コーディネーター 人羅 格 毎日新聞社論説委員 パネリスト 岩崎 尚子 早稲田大学電子政府・自治体研究所教授 牧原 出 東京大学先端科学技術研究センター教授 湯浅 聖道 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授 寺沢さゆり 長野市議会議長
16:40	次期開催地挨拶
16:50	終了

第2日目 10月20日(木)

8:30	開場
9:00	第3部 課題討議 「地方議会の デジタル化の取組報告」 コーディネーター 谷口 尚子 慶理義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授 事例報告者 金澤 克仁 取手市議会議長 板津 博之 可児市議会議長 林 晴信 西脇市議会議長
11:00	閉会式
11:30	第4部 視察

※第2部終了後に予定していた「意見交換会」は、感染状況を鑑み中止とさせていただきます。(令和4年8月15日決定)

基調講演



富山 和彦 (とやま かずひこ)

株式会社 経営共創基盤(IGPI) グループ会長
株式会社 日本共創プラットフォーム(JPiX) 代表取締役社長

ボストンコンサルティンググループ、コーポレートディレクション代表取締役を経て、2003年産業再生機構設立時に参画しCOOに就任。解散後、2007年経営共創基盤(IGPI)を設立し代表取締役CEO就任。2020年10月よりIGPIグループ会長。2020年パナソニック社外取締役。経済同友会政策審議会委員。財務省財政制度等審議会委員、内閣府税制調査会特別委員、金融庁スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードのフォローアップ会議委員、国土交通省インフラメンテナンス国民会議会長、内閣官房新しい資本主義実現会議有識者構成員、他政府関連委員多数。著書多数。

パネルディスカッション



人羅 格 (ひとら ただし)

毎日新聞社論説委員

北海道札幌市生まれ。毎日新聞社政治部官邸キャップ、同副部長、論説副委員長などを経て現職。政局取材を主に担当。地方自治が専門領域。都道府県議会制度研究会委員、総務省過疎問題懇話会委員、マニフェスト大賞審査委員、東京都明るい選挙推進協議会委員。現在、週刊「エコノミスト」(毎日新聞社)で政治コラム「東奔西走」を担当。月刊「地方議人」(中央文化社)にて「変える議会、変わる議会—改革はどこまで進んだか」を連載中。

コーディネーター



岩崎 尚子 (いわさき なおこ)

早稲田大学電子政府・自治体研究所教授

早稲田大学大学院博士課程修了(国際情報通信学博士)。専門はCIO、電子政府・自治体、デジタル・スマートシティ、国連SDGsとDX、国際比較による地方行政のデジタル化の研究など。現在、第33次内閣府地方制度調査会委員、総務省政策評価審議会委員、デジタル庁政策評価有識者会議委員、J-LIS(地方公共団体情報システム機構)経営審議会委員を務める。このほか、東京都、千葉県、兵庫県など都道府県のデジタル化に委員としても尽力している。現在、NPO法人国際CIO学会理事長兼務。主な著書は「CIOの新しい役割」(かんき出版)、「2030年日本経済復活へのシナリオ(共著)」(毎日新聞社)ほか多数。

パネリスト



牧原 出 (まきはら いづる)

東京大学先端科学技術研究センター教授

愛知県西尾市生まれ。東京大学法学部卒業。東京大学法学部助手、東北大学法学部助教授、東北大学大学院法学研究科教授を経て、2013年4月より現職。日本工学会アカデミー会員。総務省自治体戦略2040構想研究会座長代理、第32次・第33次地方制度調査会委員。専攻は行政学・政治学。オーラル・ヒストリーの手法を活用した戦後政治研究や、理論と実務・自然科学と社会科学をクロスオーバーさせつつ、人口減時代の先端公共政策研究に取り組む。「新型コロナ時代の都道府県・市町村」[ガバナンス]2020年7月号、「いわゆるオンライン会議」としての地方議会の可能性」[地方自治]第880号、「これからの地方自治と改革」[ガバナンス]2022年1月号。

パネリスト



湯浅 壱道 (ゆあさ はるみち)

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授

1970年生まれ。慶應義塾大学大学院博士課程退学。九州国際大学教授・副学長、情報セキュリティ大学院大学教授・副学長をへて2021年より現職。専門は情報法・電子政府・電子自治体。電子投票やインターネット投票、個人情報保護、情報セキュリティなど政治や行政の電子化に関する制度や法律問題について研究。総務省情報通信政策研究所特別研究員、総務省選挙人名簿管理システム等標準化検討会構成員、法務省法制審議会委員、全国都道府県議会連合会デジタル化専門委員会委員、各地の自治体の情報公開・個人情報保護法関係審議会の委員などを務める。著書「電子化時代の政治と制度」(オプアワーズ)など。

パネリスト



寺沢 さゆり (てらさわ さゆり)

長野市議会議長

1968年生まれ。日本福祉大学卒。平成19年10月から長野市議会議員を務め、連続4回当選。現在4期目。その間、決算特別委員会委員長、総務委員会委員長、福祉環境委員会委員長、議会運営委員会委員長を歴任。平成30年9月から令和元年10月まで第63代長野市議会議長を務め、令和3年に明治30年から続く長野市議会において初の女性議長として、第51代長野市議会議長に就任。「市民と議会の意見交換会」を長野市議会では初めてオンライン併用で開催するなど、更なる議会活動のデジタル化について検討している。

パネリスト

課題討議



谷口 尚子 (たにぐち なおこ)

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授

1970年広島県生まれ。慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学、博士(法学)。ミシガン大学客員研究員、東京工業大学准教授等を経て現職。専門は政治学・政治過程論(選挙分析、政策比較分析、有権者心理・行動分析等)。社会的には、地方政治制度改革・住民参画とデジタル化等を検討している。内閣府「地方分権改革有識者会議」議員(2013-現在)、総務省「第31-33次地方制度調査会」委員(2018-現在)、総務省「地方議会に関する研究会」委員(2014-2015)、全国都道府県議会議長会「デジタル化専門委員会」委員(2021-現在)、日本学術会議第一部門委員、政治学委員会政治過程分科会委員長(2020-現在)、日本政治学会・日本選挙学会・公共選択学会各理事(現在)。

コーディネーター



金澤 克仁 (かなざわ かつひと)

取手市議会議長

1975年生まれ。獨協大学経済学部卒。衆議院議員秘書を約10年務めた後、平成20年1月に取手市議会議員に初当選。現在4期目。常任委員会委員長を2回(総務文教、建設経済)、特別委員会委員長を3回(取手駅北土地利利用構想に関する調査研究、予算審査、決算審査)歴任。令和4年2月に取手市議会議長に就任。取手市議会は令和2年に新しい民主主義の創造に向けて、官民学の連携協定(デモテック宣言)を結び、オンライン本会議の実現に向けて、ICTを活用した議会運営を推進する調査研究を行っている。

事例報告者



板津 博之 (いたず ひろゆき)

可見市議会議長

1970年岐阜県生まれ。名城大学卒業後、民間企業での勤務、議員秘書を経て、2011年8月に可見市議会議員に初当選し、現在3期目。建設市民委員長や教育福祉委員長、副議長、総務企画委員長、予算決算委員長を歴任。22年8月に議長選挙の激戦を制し議長に就任、現在に至る。副議長在任時に可見市議会業務継続計画策定プロジェクトチーム座長を兼任し、可見市議会業務継続計画(可見市議会BCP)の策定に尽力した。第10回マニフェスト大賞グランプリ、第12回マニフェスト大賞成果賞特別賞受賞。高校生と今年受験の中学生を持つ父。

事例報告者



林 晴信 (はやし はるのぶ)

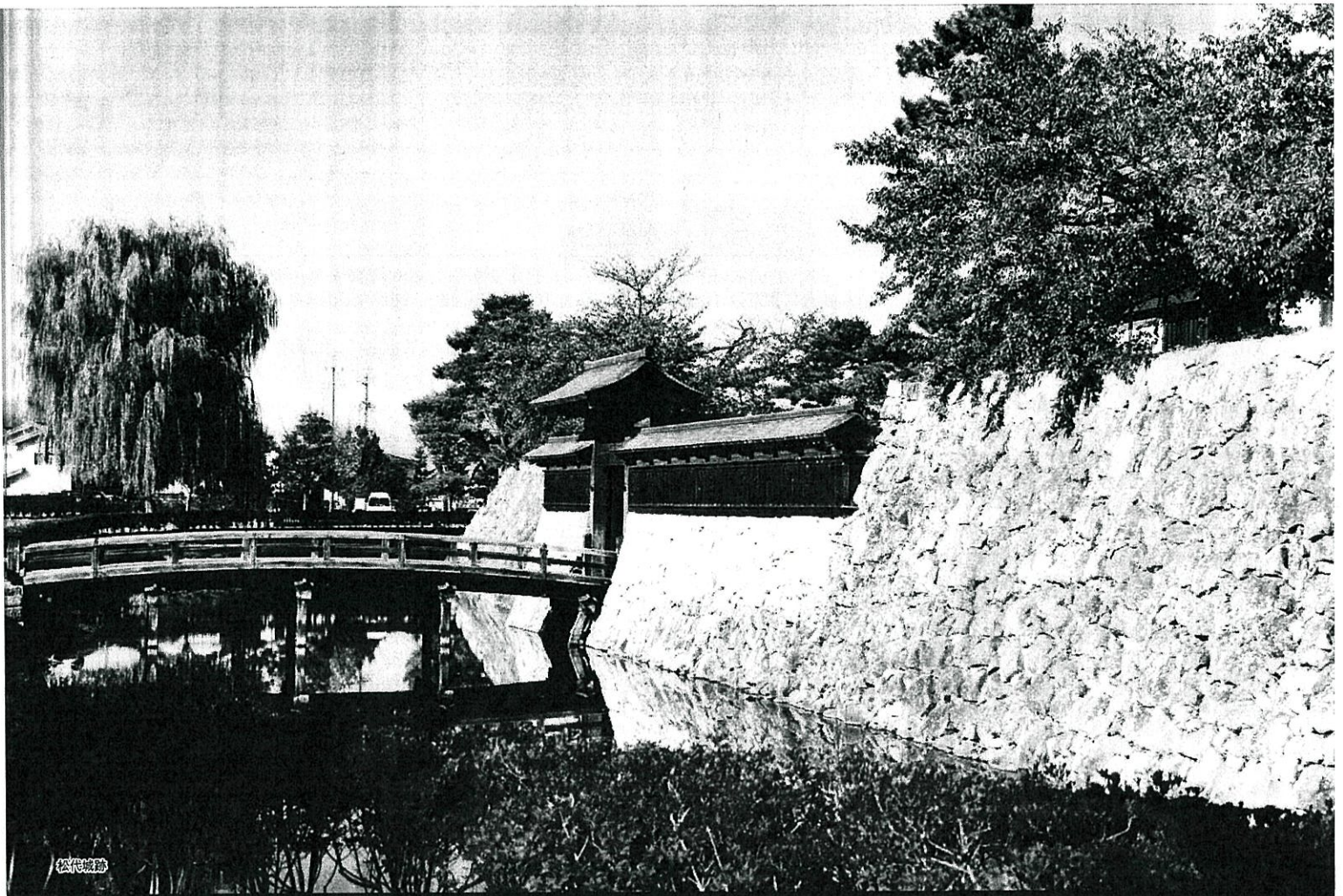
西脇市議会議長

1967年西脇市生まれ。甲南大学経済学部卒。1996年初当選。第9代、第11代、第13代西脇市議会議長。議会改革ではランキング圏外だった西脇市議会を議長就任以降、早稲田大学マニフェスト研究所議会改革度ランキング全国1位(2019年)、日経グローバル議会活力度ランキング全国1位(2018年)に導く。

マニフェスト大賞では、2018年最優秀マニフェスト推進賞(議会部門)を個人受賞、2019年最優秀成果賞を常任委員会で受賞、2021年優秀マニフェスト推進賞を議会として受賞している。

「議会は住民の中にある」「議会は住民自治のプラットフォーム」を掲げ、現在も全国の自治体議会議員に研修講演等を精力的に行っている。

事例報告者



松代城跡

第17回
全国市議会議長会
研究フォーラム



第17回

全国市議会議長会 研究フォーラム

National Association of Chairpersons of City Councils



開催のご案内

参加申込み期間

〔議長を含めた全ての対象者のお申込み〕

7月19日(火) 10時00分～7月29日(金) 17時00分

開催日：令和4年10月19日(水)・20日(木)

場 所：ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）

主催：全国市議会議長会 後援：総務省（予定）

協賛：全国市議会議員互助会（有）都市企画センター

実施：第17回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会



開催概要

日時	第1日目：令和4年10月19日（水）13時00分開会（開場・受付 11:30） 第2日目：令和4年10月20日（木）9時00分開会（開場 8:30）
場所	ホクト文化ホール（長野県県民文化会館） 長野県長野市若里1-1-3 ※会場等へのアクセスについては、P.8「会場へのアクセス」をご参照ください。
主催	全国市議会議長会
後援	総務省（予定）
協賛	全国市議会議員互助会、（有）都市企画センター
プログラム内容	<p>第1日目（10/19）</p> <p>第1部 基調講演 「コロナ後の地域経済」（予定） 富山 和彦 株式会社 経営共創基盤(IGPI) グループ会長 株式会社 日本共創プラットフォーム(JPIX) 代表取締役社長</p> <p>第2部 パネルディスカッション 「地方議会のデジタル化の意義と課題」（予定） コーディネーター 人羅 格 毎日新聞社論説委員 パネリスト 岩崎 尚子 早稲田大学電子政府・自治体研究所教授 牧原 出 東京大学先端科学技術研究センター教授 湯浅 壘道 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授 寺沢 さゆり 長野市議会議長</p> <p>第3部 意見交換会（ホテルメトロポリタン長野）</p> <p>第2日目（10/20）</p> <p>第4部 課題討議 「地方議会のデジタル化の取組報告」（予定） コーディネーター 谷口 尚子 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授 事例報告者 取手市、可児市、西脇市</p> <p>第5部 視察（希望者のみ）</p>
定員	2,300名（予定） ※申込者が定員を超えた場合は、抽選を行います。 ※申込み時に議長優先を選択した議長につきましては、抽選を行わずメイン会場（大ホール）での参加当選が決定となります。それ以外の申込者については、抽選により「参加：メイン会場（大ホール）」、「参加：中継会場（中ホール）」、「キャンセル待ち」を決定致します。 ※議会事務局職員の申込みにつきましては、各市区につき1名を限度とさせていただきます。 ※詳細は、P.9～12「参加申込みのご案内」をご参照ください。
参加費	1人9,000円

Cコース 長野市：善光寺表参道 門前を活かした中心市街地活性化によるまちづくり 視察 日帰り

コース
ポイント

中心市街地活性化の一環として、善光寺表参道を中心とした地区を視察致します。善光寺では国宝の本堂をはじめとする文化財建造物の保存活用について視察し、その後ばていお大門では「株式会社まちづくり長野」による善光寺門前町及び長野市中心部の中心市街地活性化についての講義をお聞きいただきます。

- 最少催行人員：25名 ● 旅行代金（お一人様あたり）：11,000円 ● 添乗員同行します
- 代金に含まれるもの：貸切バス代金・昼食代金・視察入場料・添乗員費用 *徒歩移動の時間が1時間以上ございます。

	行程	食事
10月20日 (木)	ホクト文化ホール ——— 宿坊（昼食）…………… 善光寺（視察）…………… 11:30 11:50 13:00 13:10 14:00 ・ ばていお大門（視察・講義） ・ 酒蔵西之門よしのや ——— 長野駅東口（16:30） 14:15 15:00 15:15 16:00	朝 × 昼 ○ 夜 ×

【善光寺・表参道】

「牛に引かれて善光寺参り」で有名な善光寺は、古くから宗派の別なく庶民に親しまれてきました。一生に一度お参りをすれば極楽浄土に行けると伝えられ、年間700万人ともいわれる多くの参拝者で賑わっています。長野駅から善光寺までの十八丁（約1.8キロメートル）の長野中央通りは善光寺表参道とも呼ばれ、商業施設が立ち並びます。歴史的建造物である土蔵や古い家屋をリノベーションした店舗などが多くあり、中心市街地活性化に寄与しています。

【ばていお大門】

善光寺表参道にある土蔵など歴史的建造物を修復し中庭（ばていお）風にしつらえた施設で、国から事業計画の認定とリノベーション補助金の交付を受けて整備した空家屋の活用による商店街の活性化の先駆的な施設です。

Dコース 長野市：ジビエ加工センターの取り組みと地域資源を活かした中山間地活性化 視察 日帰り

コース
ポイント

農業被害の軽減と中山間地域の活性化を図るために設置された長野市ジビエ加工センターの取り組みを視察致します。その後、中条地区の地元住民による、空き家や遊休農地を地域資源として活用した移住定住の取り組みをお聞きいただきます。

- 募集人員：30名、最少催行人員：25名 ● 旅行代金（お一人様あたり）：11,000円 ● 添乗員同行します
- 代金に含まれるもの：貸切バス代金・昼食代金・視察入場料・添乗員費用

	行程	食事
10月20日 (木)	ホクト文化ホール ——— さぎり荘（昼食）————— 長野市ジビエ加工センター（視察）… 11:30 12:20 13:30 14:00 14:30 …… 道の駅中条 ——— 中条交流センター（説明）————— 長野駅東口（16:30） 14:35 15:05 15:10 15:55	朝 × 昼 ○ 夜 ×

【長野市ジビエ加工センター】

農作物に被害を及ぼす有害鳥獣として捕獲されたイノシシやホンジカを、新たな長野市の地域資源“ジビエ”として無駄なく有効活用して農業被害の軽減につなげるとともに、中山間地域の活性化を図るために平成31年2月末に長野市中条地区にジビエ加工センターを整備し、令和元年7月から本格稼働を開始しました。

※記号の見方： バス ——— 徒歩 ……

※視察箇所は都合により変更になる可能性もございます。最終の視察コースは、最終案内にてご確認ください。

※日帰りの場合と1泊の場合で取消料の基準日が異なります。ご注意ください。

研修報告書

令和5年 2月 28日

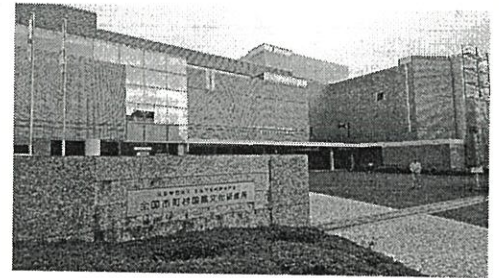
新城市議会議長 様

滝川健司



以下、研修に参加しましたので報告致します。

1. 研修日 令和5年1月23日(月)～24日(火)
2. 研修場所 全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号)
3. 研修内容 令和4年度 「第3回市町村議会議員特別セミナー」
日程及び詳細は別紙による
4. 派遣員 滝川健司
5. 経費 政務活動費を使用
6. 行程 公共交通機関(JR)を使用
7. 研修内容報告・所感



講義1 「ベーシックサービス宣言 分かち合いが変える日本社会」

講師：慶応義塾大学経済学部教授 井手英策氏



- ・日本は一見すると国民皆保険福祉制度など豊かな社会保障の国である。
- ・ところが高齢者に対しては手厚いが、現役世代は自己責任の社会である。
- ・平成の30年間で一人当たりGDPは世界第4位から26位へとなった。
- ・低下を続ける実質GDP成長率、限界にきている経済。
- ・弱い立場にある人たちを放置する社会。
- ・国民皆が安心して暮らせるよう国は責任を持つべきである。
- ・格差是正の限界、貧しい人が安心して暮らせる社会の実現。
- ・本質は格差の有無ではなく、ベーシックサービスの利用格差である。
- ・尊厳の平等化 → 人間を救済の屈辱から解放し、万人の尊厳を平等化するという哲学。
- ・サービスの無償化を競い合うのではなく、どのような理念のもと、何を、なぜベーシックと考えるのかを丁寧に説明する政治姿勢が重要である。
- ・特別定額給付金約13兆円＝ベーシックインカム＝消費税5%分＝幼保無償化15年分の金額。
- ・理解できない消費税5%減税案＝低所得層に年間5万円＝富裕層には年間23万円の恩恵。
- ・ベーシックサービスとは、だれもが生存生活のために必要とする、必要としうるベーシックなサービスである＝所得制限をつけず、すべての人に医療や福祉介護、教育といったサービスを平等に配るようにする政策のことである。

講義2 「一人ひとりの個性を尊重する (あおいけあ流) 介護の世界」

講師：株式会社あおいけあ代表取締役 加藤忠相 氏



- ・急激な人口減少社会＝75歳以上の高齢者増大した社会。
- ・介護保険給付は、要介護状態等の軽減又は悪化の防止に資するよう行われるとともに、医療との連携に十分配慮して行われなければならない。
- ・被保険者が要介護状態となった場合においても、可能な限り、その居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように配慮されなければならない。
- ・1963年老人福祉法 → 療養上の世話、2000年介護保険法 → 自立支援。
- ・高齢者介護は → 尊厳を支える → 地域包括ケア → 地域共生社会へと進化。
- ・記憶の種類から考えるケアのあり方①意味記憶②エピソード記憶③手続き記憶④プライミング記憶。
- ・車いす生活 → 歩けるように。寝たきり生活 → 起き上がれるように。
- ・おたがいさんケア = 自立支援を促す。→ 欠損部分の補填ではない。
- ・高齢者が地域の人々と楽しんでもらうイベントを通して社会参加をする。

講義3 「ヤングケアラー現状と必要な支援」

講師：一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事

日本女子大学名誉教授 堀越栄子 氏



- ・ヤングケアラーとは、大人が担うようなケアを受け、家事、世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものこと。
- ・若者ケアラーとは、上記と同様のサポートをしている18歳から30歳くらいまでの若者。
- ・高齢化社会になり、ケアを必要としている人の増加。
- ・ヤングケアラーの実態調査により、小中学生が幼い兄弟や父母のケアしている。
- ・ヤングケアラー支援、ケアラー支援がない場合の社会経済的リスク。→福祉費の増大。
- ・ヤングケアラーはケアラーである前に、成長過程にある子どもである。
- ・若者ケアラーはケアラーである前に、自分の足で人生を歩み始めたばかりの若者である。
- ・ヤングケアラーは見ようとしないと見えない存在、見ようとしても見えにくい存在である。
- ・子どもたちが健康に生き教育を受ける権利、子どもの権利を守るという視点必要。
- ・既存の福祉政策のみではカバーできないとの認識が必要である。
- ・ヤングケアラーは若者になり大人になっていくことから、全世代のケアラーを対象とした包括的なケアラー支援の仕組みが必要である。
- ・ヤングケアラーの存在と支援についての認識を広め、社会全体で支援する仕組みと支援策を考える。
- ・すべてのケアラーが個人として尊重され、健康で文化的な生活を営むことができる、共生社会の実現を目指す。

講義4 「ひきこもり本人や家族が必要とする支援と地域の役割」

講師：特定非営利活動法人KHJ 全国ひきこもり家族会連合会

広報担当理事 池上正樹 氏



- ・「8050」とは、一般的に80代の親と自立できない事情を抱える50代の子どもを指し、こうした親子が社会的に孤立してしまう問題が「8050問題」と呼ばれひきこもりがその背景にある。
- ・ひきこもりとは病名ではない、他者との関係を遮断し発信しないのが特徴。
- ・人が怖い、人を頼れない、家の中だけが安心できる居場所。命を守るために待避、絶望しかなくなれば死を選ぶ。
- ・ひきこもる行為は自死ではなく生き延びようとしている証である。
- ・全国推定115万人のひきこもり、多様性と社会的要因によるひきこもりなど一人一人背景が違う。
- ・深刻な人ほどひきこもりとラベリングされるのを嫌う。診断名や障害認定がないと現行制度に乗せられない現状。
- ・足繫く通って丁寧に丁寧に信頼関係を気付いていくことが大切。
- ・家族支援の重要性、まず動き出すのは家族、安心して話ができる受け皿を作ること。
- ・家庭内でのコミュニケーションを円滑にするのは挨拶と感謝、本人が大事にしているものを知る努力と覚悟必要。
- ・当事者が自発的に動かない時に家族ができること、自己選択や自己決定、自己行動する機会を作る。
- ・最初の一步の家族支援（家族会）、行きつ戻りつが可能な息の長い支え合いの体制が必要。
- ・引き出すことを目的にしたアウトリーチは絶対にダメ。
- ・ひきこもる生き方も多様な社会の選択肢の一つ、皆と違って自分らしく生きていける選択肢を尊重できる社会も必要。
- ・みんなが当事者、どの年代でも何歳からでも、誰もがひきこもり状態になり得る。ひきこもりの人たちが生きやすい社会は、皆が生きやすい社会である。

【所感】

今回の研修は少子高齢化時代の福祉施策、ヤングケアラーやひきこもりなど支援制度の外側に目を向けた研修であった。ベーシックサービスとベーシックインカムの違い、コロナ禍に行われた特別定額給付金の13兆円や消費税5%減税案の意味と効果について、わかりやすく解説していただいた。人口減少時代において所得制限をつけず、すべての人に医療や福祉介護、教育といったサービスを平等に配るようになる政策を実現するための財源についてももう少し深く議論し講義していただきたかった。ヤングケアラーやひきこもりといった皆さんは現行の福祉制度では支援が難しい部分もあるが、その実態や社会的な認知も進み、支援の必要性やすでに取り組んでいる先進自治体もあり本市も積極的に取り組むべきと考える。

令和4年度

第3回

市町村議会議員特別セミナー

日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、地方議会の議員には、様々な行政課題について学び、施策を提案していくことが求められています。

今回のセミナーでは、「福祉」というテーマのもと、各分野でご活躍の先生方から講演をいただき、改めてわがまちの現状を見直し、今後の未来と地方議員に求められる役割について多角的に考えていただきます。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

開催要領

日程

令和5年1月23日(月)～1月24日(火)(2日間)

場所

全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対象

市区町村議会議員

2日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数

来所による受講 150人 ※途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

オンラインによる受講 50人 ※オンラインについては、ビデオ会議システムZoomを使用します。機材(1人1台)やインターネット接続のための環境が必要です。詳しくはZoom公式サイトをご参照ください。

「来所による受講」、「オンラインによる受講」ともに、募集人数を大幅に上回るお申込をいただいた場合は、**先着順**とさせていただきます。そのため、申込期限前に締め切らせていただく場合があります。その場合は、JIAMホームページのトップページ「受講者募集中の研修」でお知らせいたしますので、適宜ご確認ください。

宿泊

研修所宿泊棟(宿泊型研修)(来所受講のみ) ※外泊はできません。

経費

来所受講: 6,900円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食1回、昼食1回、夕食1回)、資料等にかかる費用です。なお、事前準備・事前学習および最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。

オンライン受講: 2,000円

申込期限

令和4年11月22日(火)まで ※先着順のため、申込期限前に締め切らせていただく場合がございます。

申込方法

議会事務局を通じて、JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。

来所による受講とオンラインによる受講を選択できますので、どちらか一つのみお申し込みください。「Web申込み」が難しい場合は、受講申込書により議会事務局を通じてFAXでお申込ください。

※受講申込書は、議会事務局に送付しております。またJIAMホームページの書類様式集(<https://www.jiam.jp/doc/>)にも掲載しております。

受講決定

受講の可否については、通常、開講日の約1か月前までに通知をお送りしておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2～3週間前までの送付となる場合もございますので、ご了承ください。経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

問い合わせ先

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL.077-578-5932 FAX.077-578-5906

[e-mail] kenshu@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

令和5年

1月

23日(月)

11:00~
入寮受付・昼食

13:00~
開講式・日程説明

13:15~14:45
「ベーシックサービス宣言～分かち合いが変える日本社会～」
慶應義塾大学 経済学部教授 井手 英策 氏

15:05~16:35
「一人一人の個性を尊重する「あおいけあ流」の介護の世界」
株式会社あおいけあ 代表取締役 加藤 忠相 氏

17:30~
交流会 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

令和5年

1月

24日(火)

9:00~10:30
「ヤングケアラー支援の課題と支援のあり方」
一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事/日本女子大学名誉教授 堀越 栄子 氏

10:50~12:20
「ひきこもり本人や家族が必要とする支援と地域の役割」
ジャーナリスト/特定非営利活動法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会広報担当理事
池上 正樹 氏

12:20~12:30
閉講・事務連絡

講師紹介

慶應義塾大学 経済学部教授 井手 英策(いで えいさく) 氏

1972年生まれ。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。日本銀行金融研究所、東北学院大学、横浜国立大学を経て、現在、慶應義塾大学経済学部教授。専門は財政社会学。総務省、全国知事会、日本医師会、全労済協会等の研究会座長・委員のほか、朝日新聞論壇委員、毎日新聞時論フォーラム委員なども歴任。著書に「どうせ社会は変えられないなんてだれが言った?」(小学館)『経済の時代の終焉』(岩波書店)ほか多数。2015年度大佛次郎論壇賞、2016年度慶應義塾賞を受賞。

株式会社あおいけあ 代表取締役 加藤 忠相(かとう ただすけ) 氏

東北福祉大学社会福祉学部社会教育学科卒業。大学卒業後に横浜の特別養護老人ホームに就職。3年後退職し、2001年に株式会社あおいけあを設立。「グループホーム結」「デイサービスいどばた」「おたがいさん」「おとなりさん」を営業。2012年11月「かながわ福祉サービス大賞～福祉の未来を拓く先進事例発表会～」において大賞受賞。NHK「おはよう日本」「あさイチ」「時論公論」「プロフェッショナル仕事の流儀」等テレビ番組、各種新聞、雑誌等で多数特集、映画のモデル事業所にもなっている。「日経ビジネス」～次代を創る100人2017～に選出。

一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事/日本女子大学名誉教授 堀越 栄子(ほりこし えいこ) 氏

1974年以降、日本女子大学で教育研究に携わる一方で地元(埼玉県)の市民活動に参加し、2000年前夜からは「NPO支援のNPO」の設立に加わり、市民自治を進める活動を行なっている。2010年には、「ケアラーを社会で支えるしくみを作ろう」と、日本ケアラー連盟を設立し、代表理事の1人となる。設立以降、全国2万世帯のケアラー実態調査、自治体でのヤングケアラー調査等を行い、日本の多様なケアラーの現状を把握し、ケアラーを社会的に支援する必要性や支援策、法制化・条例化について社会に発信し、国や自治体に提言を行っている。埼玉県ケアラー支援条例、さいたま市ケアラー支援条例の制定にも積極的にに関わり、現在は「埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議」の委員を務めている。

ジャーナリスト/特定非営利活動法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会広報担当理事 池上 正樹(いけがみ まさき) 氏

25年にわたり数千人の「ひきこもり」当事者とやりとりしてきた。また、「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」を発足当初からサポートし、家族の相談にも乗ってきた。東京都町田市ひきこもり専門部会委員、江戸川区ひきこもり支援協議会委員、厚労省ひきこもり広報事業企画検討委員会委員等。2012年から10年間開催した対話の場「ひきこもりフューチャーセッション庵」運営者の1人。江戸川区ひきこもりオンライン居場所コーディネーター。NHK「クローズアップ現代+」「あさイチ」をはじめ、テレビやラジオに多数出演。Nスベドラマ「こもりびと」、NHK土曜ドラマ「ひきこもり先生」等の監修も務める。著書は『ルポ「8050問題」～高齢親子「ひきこもり死」の現場から～』(河出書房新社)、『ルポひきこもり未満』(集英社新書)、『大人のひきこもり』(講談社現代新書)など多数。日本文藝家協会会員。

● 研修内容については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。なお、研修についての最新情報は、JIAMホームページをご覧ください。

JIAMメールマガジンのお知らせ

当研修所では、メールマガジンを発行しています。各研修に関する最新情報などを定期的にお知らせします。ぜひご登録ください。読者登録は、JIAMホームページで受け付けています。

令和4年度「第3回市町村議会議員特別セミナー」時間割

(敬称略)

月日	曜日	1時限 (9:25-10:35)	2時限 (10:50-12:00)	3時限 (13:00-14:10)	4時限 (14:25-15:35)	5時限 (15:50-17:00)	課外 (17:00-)
1/23	月		11:00 入寮受付 13:00 開講式、日程説明	【講義】 (13:15-14:45) ベーシックサービス宣言 ～分かち合いが変える日本社会～ 慶應義塾大学経済学部 教授 井手 英策 【講堂】	【講義】 (15:05-16:35) 一人一人の個性を尊重する 「あおいけあ流」の介護の世界 株式会社あおいけあ 代表取締役 加藤 忠相 【講堂】		17:05- 入寮オリエンテーション
1/24	火	【講義】 (9:00-10:30) ヤングケアラー支援の課題と 支援のあり方 日本女子大学名誉教授 一般社団法人日本ケアラー連盟 代表理事 堀越 栄子 【講堂】	【講義】 (10:50-12:20) ひきこもり本人や家族が 必要とする支援と地域の役割 ジャーナリスト 特定非営利活動法人KHJ全国 ひきこもり家族会連合会 広報担当理事 池上 正樹 【講堂】	12:20-12:30 閉講・事務連絡			

講師紹介

●慶應義塾大学 経済学部教授 井手 英策(いで えいさく)氏

1972年生まれ。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。日本銀行金融研究所、東北学院大学、横浜国立大学を経て、現在、慶應義塾大学経済学部教授。専門は財政社会学。総務省、全国知事会、日本医師会、全労済協会等の研究会座長・委員のほか、朝日新聞論壇委員、毎日新聞時論フォーラム委員なども歴任。2015年度大佛次郎論壇賞、2016年度慶應義塾賞を受賞。

主な著書に『どうせ社会は変えられないなんてだれが言った?』(小学館、2021年)、『幸福の増税論—財政はだれのために』(岩波新書、2018年)、『経済の時代の終焉』(岩波新書、2015年)ほか多数。

●株式会社あおいけあ 代表取締役 加藤 忠相(かとう ただすけ)氏

東北福祉大学社会福祉学部社会教育学科卒業。横浜の特別養護老人ホームに就職し3年後退職。2001年に株式会社あおいけあを設立。「グループホーム」「デイサービス」の営業をはじめ、2007年より小規模多機能型居宅介護も開始。2012年11月に「かながわ福祉サービス大賞」大賞受賞。2017年「おとなりさん」開所。テレビ、各種新聞・雑誌等で数多く特集。漫画『ほっと介護日誌』で漫画化。2017年公開映画『ケアニン～あなたでよかった』モデル事業所。NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀～」にて2回特集。日経ビジネス「次代を創る100人」に選出される。

主な共著書に、『あおいけあ流介護の世界』(南日本ヘルスリサーチラボ)、『ソーシャルワーカー』(ちくま新書)ほか多数。

●一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事 日本女子大学名誉教授 堀越 栄子(ほりこし えいこ)氏

日本女子大学家政学部家政経済学科卒業。1974年2月同学科助手就任。2019年より、日本女子大学名誉教授。1997年に現在代表理事を務める「認定NPO法人さいたまNPOセンター」の設立に参加。2010年に現在代表理事を務める日本ケアラー連盟の創設に関わる。全国2万世帯のケアラー実態調査や自治体へのヤングケアラー実態調査、政策提言、自治体職員や専門職、市民団体等への支援研修を担う。埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議委員も務める。

主な共著書に、『福祉環境と生活経営』(朝倉書店)、『市民生活と自治体責任』(学陽書房)、『暮らしをつくりかえる生活経営力』(朝倉書店)、『総合介護条例のつくり方』(ぎょうせい)ほか多数。

●ジャーナリスト 特定非営利活動法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会 広報担当理事

池上 正樹(いけがみ まさき)氏

25年にわたり数千人の「ひきこもり」当事者とやりとりし、「KHJ全国ひきこもり家族会連合会」を発足当初からサポート。家族の相談にも乗る。東京都町田市ひきこもり専門部会委員、江戸川区ひきこもり支援協議会委員、厚労省ひきこもり広報事業企画検討委員会委員等。2012年から10年間開催した対話の場「ひきこもりフューチャーセッション庵」運営者の1人。江戸川区ひきこもりオンライン居場所コーディネーター。テレビやラジオに多数出演。Nスペドラマ「こもりびと」、NHK土曜ドラマ「ひきこもり先生」等の監修も務める。

主な著書に『ルポ「8050問題」～高齢親子“ひきこもり死”の現場から』(河出書房新社)、『ルポひきこもり未満』(集英社新書)、『大人のひきこもり』(講談社現代新書)などほか多数。日本文藝家協会会員。